

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	城東区
学 校 名	聖賢小学校
学校長名	林田 泰治

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・聖賢小学校では、第6学年 56名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語は全国平均を1.8ポイント上回った。全国と大阪市の平均を上回っている内容が2つあり、「我が国の言語文化に関する事項」が全国では4ポイント、大阪市は5.3ポイント上回ったことが大きな要因となっている。

算数は、全国と大阪市の平均を共に1ポイント上回っている。5領域中、全国と大阪市の平均を上回ったのは2つ、下回ったのが3つだったが、結果は上回っていた。

理科は、全国平均を4.1ポイント下回る結果となった。A・B両区分全ての領域が全国平均を下回っていた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕全国平均より少し低い結果となった。国語の「話すこと・聞くこと」が全国平均で5.2ポイントも下回っていた。「自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えること」や「話し相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること」ができていない児童が多かった。そのため話したり、聴いたり活動を通して考えを深める今年度の国語科の研究から課題解決に取り組んでいるところである。

〔算数〕全国・大阪市の平均を1ポイント上回った。「数と計算」のポイントがよく、これは昨年度の習熟度別少人数学習で実施していた計算タイムや宿題等で計算練習を繰り返し行ったことを、今年度も各学級で継続していたことによるものと分析する。3領域において全国・大阪市の平均を下回っている課題がある。

〔理科〕全国平均を4.1、大阪市の平均を2ポイント下回る結果となった。特にB区分に課題があり、「地球」を柱とする領域が弱く、結果をもとに理由をかく記述式の問題の無解答が目立った。

質問調査より

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」で、肯定的な回答をした児童が、全国・大阪市平均よりも少し上回っている。反復学習を授業の残り時間や宿題で取り組んだ結果が表れてきた。「学校に行くのは楽しいと思いますか」では、肯定的な回答をしている児童は全国平均とほぼ同じだったが、「楽しくない」児童が全国平均よりも12.9ポイントも上回っている。児童同士の関係づくりを慎重に進めなければならない。また、意欲や関心を引き出し、達成感や成就感感じられる授業の工夫、高学年として面白さを見つけられるような声がけしなければならない。

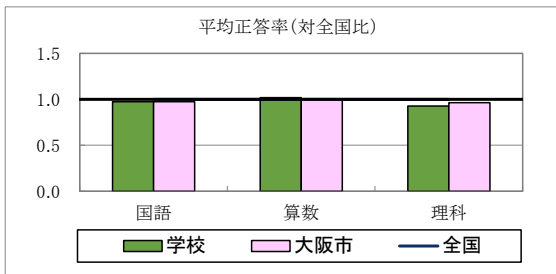
今後の取組(アクションプラン)

国語科は、目的や意図に応じて、話したり聞いたりすることに課題があることがわかった。今年度の研究は国語科とし、「交流を通して自分の考えを深める児童の育成」としている。学習のめあてを基にした話しや聴き合いができる交流を目指している。算数科では、全国・大阪市の平均より高かったが、「データ活用」の表やグラフの読み取りに課題がある。理科や社会と横断的な学習を継続していく。理科では、実験を多く取り入れて、興味関心がもてるようにしている。しかし、内容が少し変わると答えることができておらず、応用力が必要とわかった。主体的な学びとして、自主学習を取り入れているが、応用力を磨くために、教科を横断した学習を継続して行う。指導者は学習の場の工夫や設定、言葉がけをして、児童が意欲的に取り組めるような手立てを打っていく。

【 全体の概要 】

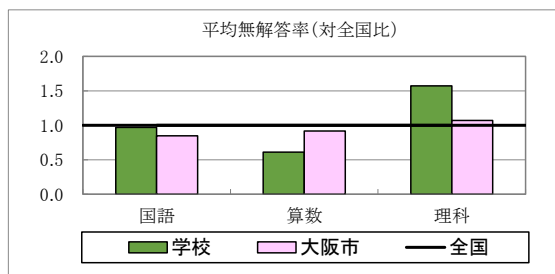
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	65	59	53
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	3.2	2.2	4.4
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



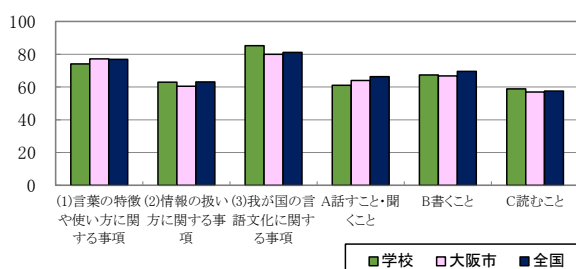
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	74.1	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	63.0	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	85.2	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	61.1	64.0	66.3
B 書くこと	3	67.3	66.7	69.5
C 読むこと	4	58.8	56.9	57.5

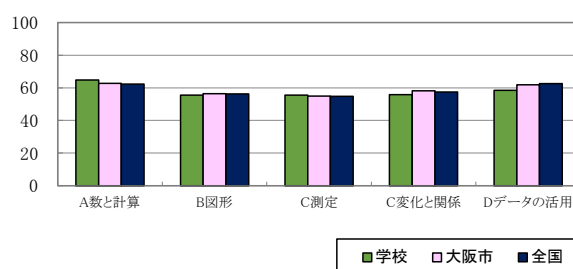
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	64.8	62.7	62.3
B 図形	4	55.5	56.4	56.2
C 測定	2	55.5	54.9	54.8
C 変化と関係	3	55.8	58.2	57.5
D データの活用	5	58.5	61.9	62.6

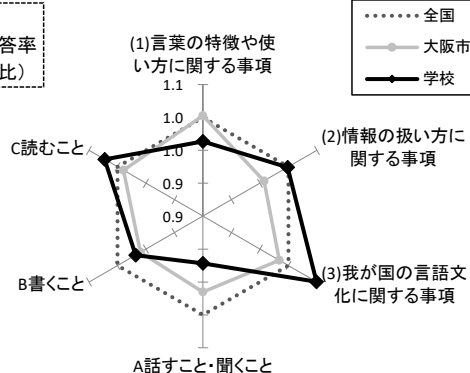
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



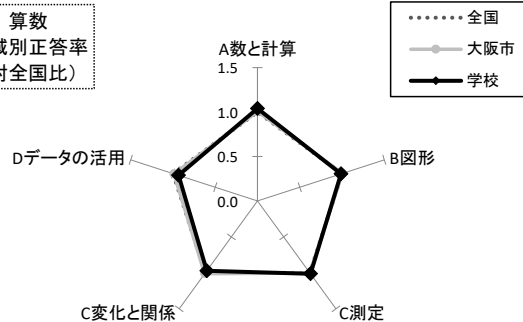
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

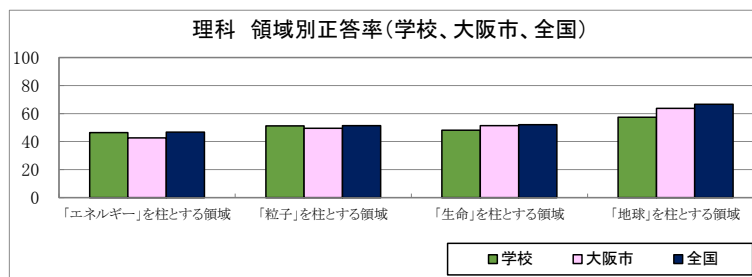


算数
領域別正答率
(対全国比)

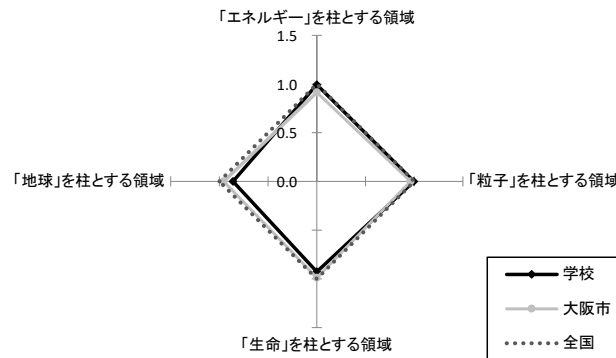


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	46.4	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	51.2	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	48.2	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	57.4	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

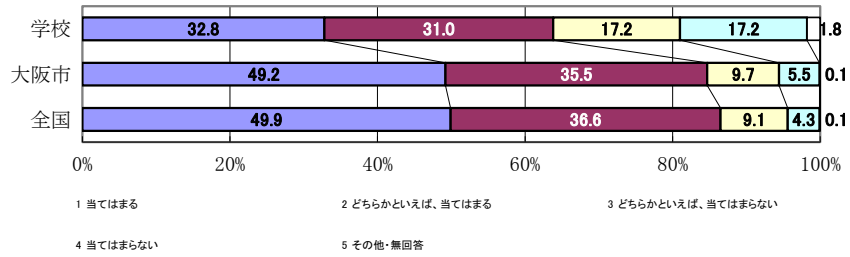
質問番号

質問事項

12

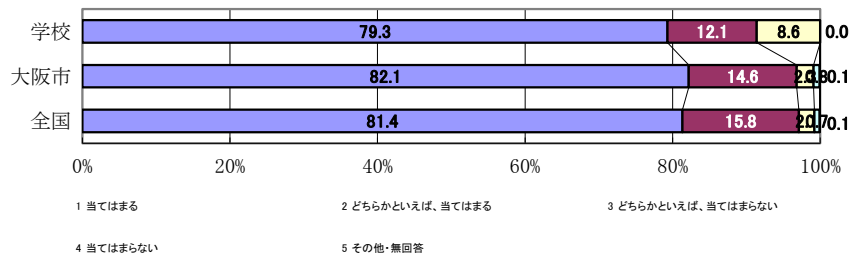
学校に行くのは楽しいと思えますか

1 2 3 4 5 6 7 8



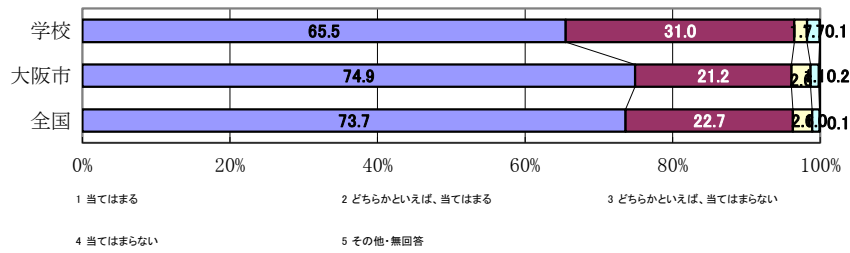
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



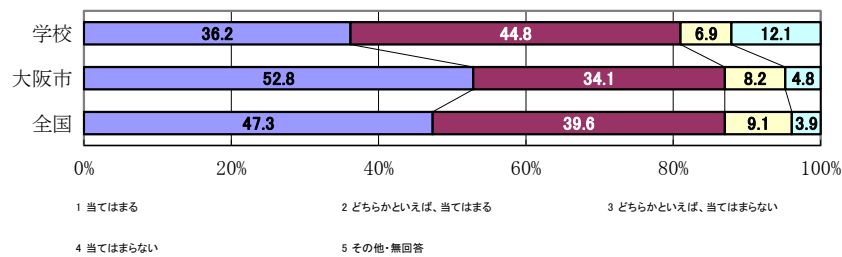
11

人の役に立つ人間になりたいと思えますか



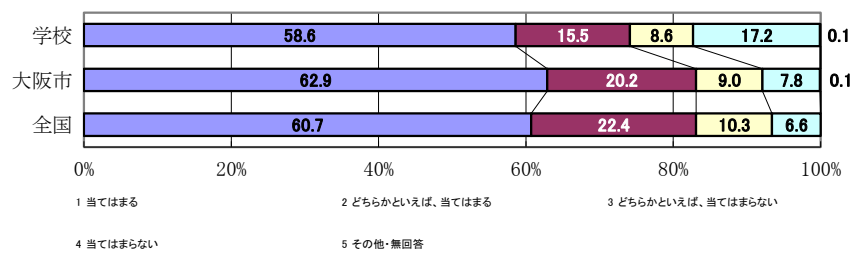
5

自分には、よいところがあると思えますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



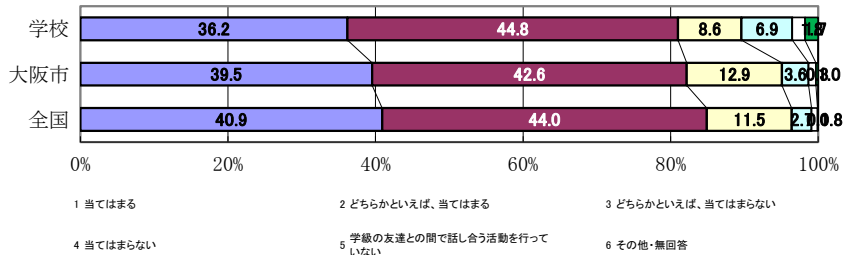
児童質問より

質問番号

質問事項

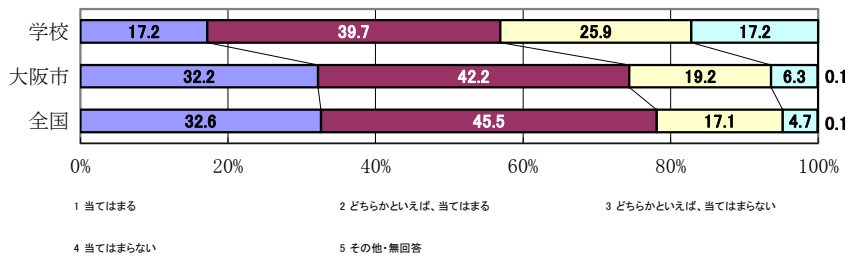
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



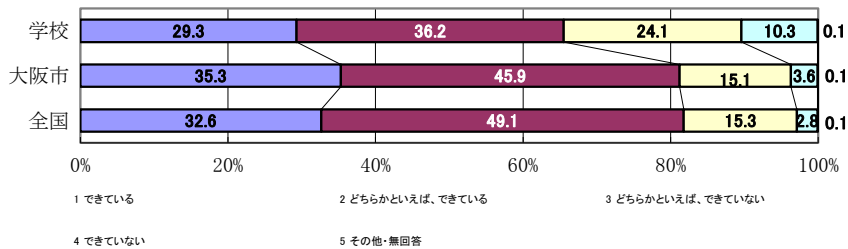
13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



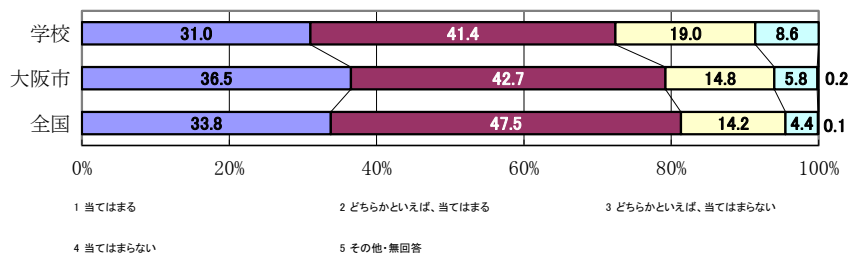
16

分からないことやよく知りたことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



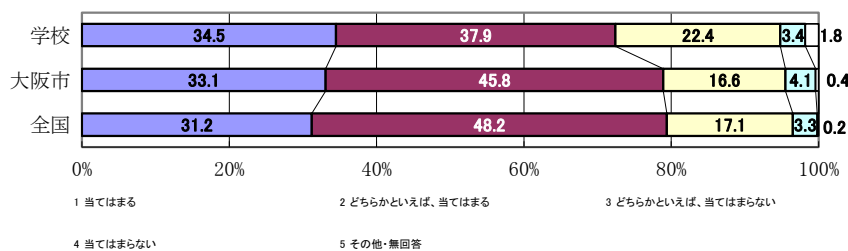
27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



36

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



児童質問より

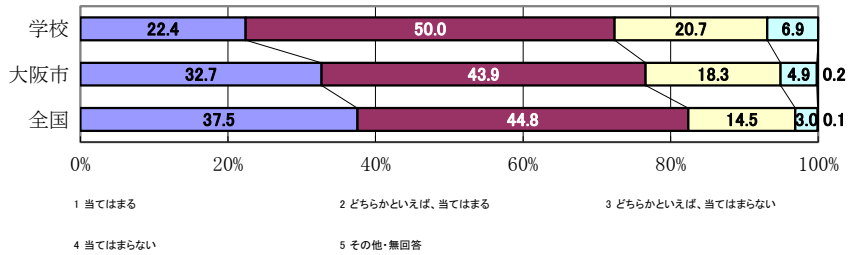
質問番号

質問事項

40

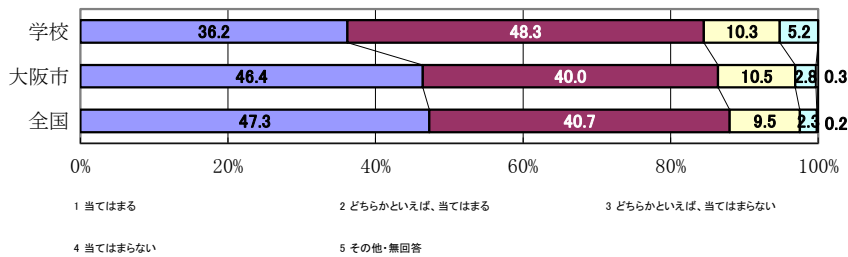
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

1 2 3 4 5 6 7 8



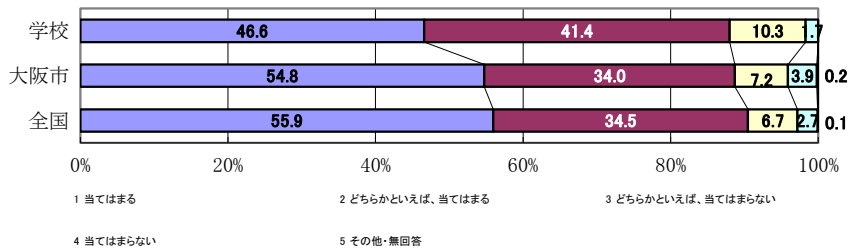
43

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



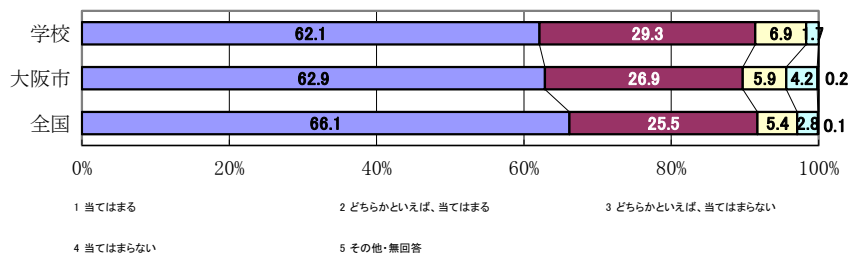
47

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



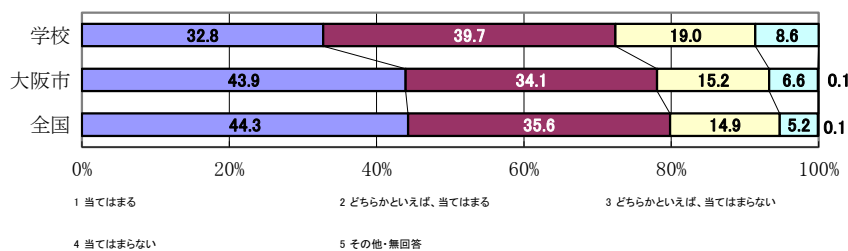
55

算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



63

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



学校質問より

質問番号

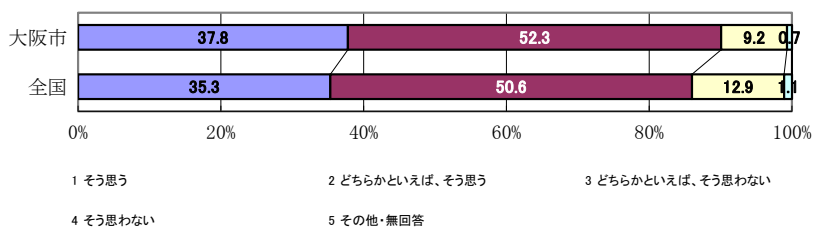
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

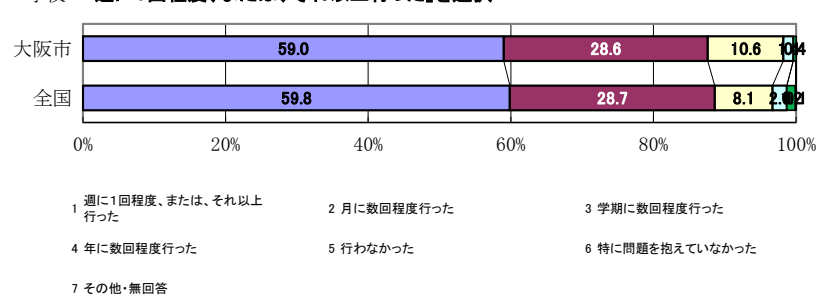
学校 「そう思わない」を選択



12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

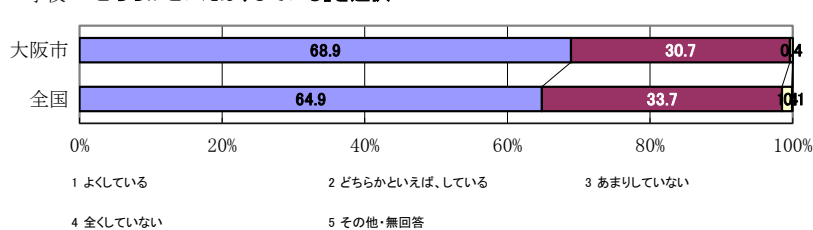
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

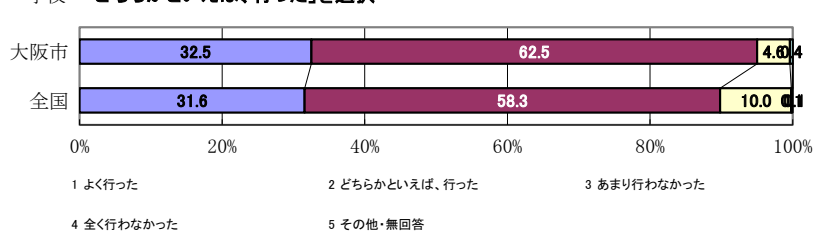
学校 「どちらかといえば、している」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



45

調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか

学校 「全く行わなかった」を選択

